都市基盤学科

1. 学習・教育目標

【育成人材像】

今日の都市基盤、社会基盤の計画、建設、運用においては、地球的観点にたって自然環境との調和のとれた共生を目指すことの重要性が指摘されている。既存の土木工学が担っていた基盤技術(いわゆる建設・維持管理技術)に加えて、水・土壌環境や生態系維持、防災、社会資本政策やプロジェクトマネジメント、国際協力など、新たな要求が生まれている。都市基盤学科では、土木工学教育を機軸に、都市科学部の文理をまたがる知見と連携して、地域・都市から地球規模に至る様々なスケールにおいて、リスク、サステナビリティ、グローバルなどの視点で人間・自然環境を再構築し、あるいは創造するための、都市基盤に係る技術やデザイン、政策決定、マネジメントなどに関する専門教育を展開し、安全安心で靱性の高い高品質な都市、地球環境・社会的公平性・経済的効率性のバランスある持続的発展、国際的な技術協力支援・今日的グローバル課題の解決などの実現に主導的に貢献できる人材を育成する。

【学習·教育到達目標】

- 1. 土木技術が社会や自然に対して極めて大きな影響を及ぼすものであることを理解し、技術者としての責任を自覚すると共に、地球的観点にたって自然環境との調和のとれた共生を目指すことの重要性を理解する。
- 2. 自然科学,人文科学,社会科学など,幅広い学識としての教養を習得し、これらが都市や社会を自然災害から守るとともに豊かにすることを使命とする土木工学を学ぶ上で有用な基礎学理であることを理解すると共に、社会の要求を的確に把握し解決する能力を身につける。
- 3. 科学技術における共通的リテラシーとしての数学,英語,情報技術を習得し,それらを用いた最先端技術を活用する能力を身につける。
- 4. 構造工学系, 水工学系, 地盤工学系, 土木計画学系, 土木材料学系の基礎学理を理解する。
- 5. 主要分野に関する実験・実習・演習を通して、基礎学理を踏まえた実現象への理解を深める。
- 6. 主要分野に関する演習・研究を通して、自主的・継続的な学習能力と、与えられた制約条件の下で計画的に仕事を進め、成果をとりまとめる能力を身につける。
- 7. 主要分野に関する演習・研究を通して、日本語による論述的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を身につける。
- 8. 主要分野に関する演習・研究を通して、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけると共に、技術英語の読解力の基礎を涵養する。
- 9. 以上を総合し、土木技術者として所属する各組織において、自己および相手の取るべき行動を的確に判断し、他者と協働するとともにリーダーシップのとれる素養を身につける。

2. 教育の流れ

【1年~2年次】

1年次と2年次で全学教育科目,理数系科目を含む専門基礎科目を学ぶ。並行して1年次から,土木工学に関する導入科目と,土木工学を取り巻く政策,法制度などの社会科学や,防災に関連する自然科学に関する専門科目を学び始め,2年次,3年次とより専門性を高めていく。

2年次以降は専門科目に加えて、国内外で自然環境と調和した都市基盤を構築するための実践力を身に付けるために、 実践的な科目、実験・演習、国内外のインターンシップ等で幅広く学習する。

【3年~4年次】

3年次からは高度な専門分野や周辺分野の科目を、以下の3つの人材育成目標に沿うように履修する。

- (1) 国内を拠点に社会の中での基盤施設のあり方に総合的視野から解決策や計画を提示できる土木エンジニア・プランナー
- (2) 海外を拠点に総合的視野からグローバルな課題に取り組む土木エンジニア・プランナー
- (3) 非建設業を含めた多様な各種産業において、土木工学の視点で最先進の科学技術やシステムを実装しマネジメントできる専門家

4 年次には、実践系の科目の履修に加えて、卒業研究に関するテーマを選定して個別の研究を行い、卒業論文として成果をまとめて発表する。

なお、3年次~4年次にかけて高度全学教育指定科目を履修する。

3. 履修登録単位数の上限

- (1) 履修登録単位数の上限(半期)は、指定科目を除き1年次24単位、2年次20単位、3年次以上20単位とし、上限緩和措置適用者に対しては26単位とする。下記枠内の指定科目はこの計算に含めない。
- (2) 履修する学期の前の学期に修得した科目の GPA が 3.0 以上の場合は、上限緩和措置が適用され 26 単位まで履修できる。

上限設定の対象とならない科目

都市基盤安全学入門 I/II, 測量学実習 I/II, 国際基盤工学実習, 都市環境実験・演習 A/B, 構造力学演習, 水理学演習 土質力学演習, 都市基盤計画演習, コンクリート工学演習, 学外インターンシップ, 海外インターンシップ, 卒業研究 A/B

4. 早期卒業

2年次終了時の専門科目の GPA が 4.20以上であり、3年春学期終了時点で卒業研究着手資格を有しかつ卒業に必要な科目の GPA が 4.0以上で修得した場合で、卒業審査に合格した者については卒業が認定される。この早期卒業を希望する学生は、2年次終了時点に予め教務・厚生委員に申請をおこない、履修指導を受けること。その上で、早期卒業のためには、3年春学期終了時に卒業研究のための学力と能力に関する審査をおこない、これに合格することが必要である。

5. 成績の扱い

- (1) 各学期の成績に基づき、担任面談の際、履修指導を実施する。特に、GPAが2.0に満たない学生は、勉学に関する個別指導を実施する。
- (2) 卒業研究における研究分野配属は、各研究分野への配属上限数を決定の上、成績順に配属希望を取り決定する。なお、この際、成績は GPA および GPT を基に評価する。

6. 大学院への飛び入学

早期卒業とは別に、2 年次終了時の成績が極めて優秀な学生は、3 年次に本学大学院の入学試験を受験して大学院に飛び入学することができる。ただし飛び入学の場合は学部卒業扱いにならないため、将来の資格取得の際には注意を要する。詳細は教務・厚生委員に相談すること。

7. 卒業資格

- (1) 4 年以上在学し、全学教育科目 30 単位以上、学部教育科目から 94 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、卒業 に関わる授業科目の GPA が 2.0 以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。
 - (入学前既修得単位として認定された科目、他大学開講科目で単位認定された科目、交換留学(派遣)による認定科目、「合格」「不合格」で評価される科目は、卒業に関わる授業科目の GPA の対象としない。)
- (2) 全学教育科目については、人文社会系基礎科目 4 単位以上、自然科学系基礎科目 4 単位以上、英語 6 単位以上と初修外国語 2 単位以上を含む外国語 10 単位以上を修得し、合計 30 単位以上修得すること。(ただし、YGEP-N1 学生及び YGEP-N2 学生においては、外国語は日本語で代替することができる。YGEP-N2 学生については、日本事情科目を人文社会系基礎科目に代替することができる。)
- (3) 高度全学教育指定科目として学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から合計 4 単位以上を 3 年次あるいは 4 年次に修得すること。
- (4) 学部教育科目については、以下の(5)~(8)までの条件を満たし94単位以上を修得すること。
- (5) 学部共通科目(基幹知科目)については、都市科学の基礎 3 科目 4 単位、グローバル・ローカル関連科目 2 科目以上、リスク共生関連科目 2 科目以上、イノベーション関連科目 2 科目以上を含む合計 14 単位以上を修得すること。なお、学部共通科目のうち、都市基盤構造力学、都市基盤材料複合力学、都市基盤水理学、都市基盤土質力学、都市基盤計画論の 5 単位については、それぞれの分野の必修科目に直結する重要な科目であるため、修得することを推奨する
- (6) リテラシー科目から必修科目 2 科目 2 単位、基礎演習科目から 1 単位以上、理工学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目 から必修科目 2 科目 2 単位を含み 14 単位以上、専門科目 63 単位以上を修得すること。
- (7) 専門科目は、専門コア科目から、必修科目 21 単位、選択必修科目 11 単位を含み、専門関連科目から 4 単位以上を含んで、63 単位以上を修得すること。
- (8) 学部教育科目のうち2単位以上は、学科の指定する英語関連科目を修得すること。

8. 卒業研究を行うに必要な要件

- (1) 3年以上在学していること。早期卒業については、С 2の4.を参照のこと。
- (2) 卒業研究に着手する際には、履修基準表「卒業研究着手に必要な単位数」を満たすことが必要である。必要な単位数を満たし、卒業研究着手資格を取得した者は、4年次春学期に「卒業研究 A」を必ず履修登録すること。
- (3) 卒業研究着手資格者は審査の上公表する。
- (4) 4年次秋学期に卒業研究を継続するためには、履修基準表「4年次春学期末までに修得すべき単位数」を満たしていることが必要である。当該単位数を満たしている場合、4年次秋学期に「卒業研究 B」を必ず履修登録すること。
- (5) 「卒業研究 A」および「卒業研究 B」の単位を取得し、なおも履修基準表「卒業に必要な単位数」を満たさない場合は、その後の単位取得により、「卒業に必要な単位数」を満たす時点で卒業資格審査を行う。

9. 履修基準表

							_
	£	斗目群		卒業研究着手に	4年次春学期末まで	卒業に必要な	
	↑	十日 4平		必要な単位数	に修得すべき単位数	単位数	
	基礎科目	人文社	土会系	2	4	4(**1)	高度全学教育
	本 旋杆目	自然和	斗学系	2	4	4(※1)	定科目から41
全	グロ	ローバル教育和	斗目	選択	選択	選択(※1)	位以上(※1)
学	イノ〜	ベーション教育	`科目	選択	選択	選択(※1)	,,,
教		英語	科目	6	6	6	
育	外国語	初修外	卜国語	_	_	2	
科		į	+	9	10	10	
目	<i>[</i> 7= 1 1-	康スポーツ科		選択(2単位まで	選択(2単位まで	選択(2単位まで	1
) 性	尿スホーノ科	Ħ	算入できる)	算入できる)	算入できる)	
		計		26	28	30]
		都市科学	学の基礎	_	_	4	
	学部共通	グローバル・	コーカル関連	_	_	(2 科目)	
	字部共通 科目	リスク共	生関連	_	_	(2 科目)	
	竹目	イノベーシ	/ョン関連	_	_	(2 科目)	
学		Ī	+	10	12	14	
部	j	Jテラシー科 E		0以上	0以上	2	
教		基礎演習科目		0以上	0以上	1	
育		カテコ	ĭIJ—A	6	6	6	1
科口	専門基礎	カテコ	ĭУ—В	2	2	2	
目 (※の)	科目	į	+	10	10	14	
(※2)		専門コア	必修	12	12	21	
	去四分日	科目	選択必修	7	9	11	
	専門科目	専門関連科	· 目	0以上	0以上	4	
		į	+	41	41	63	
		計		79	87	94	1
	総	単位数		105	115	124	
					I	1	

- (※1)高度全学教育指定科目として、3年次以降に本学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から4単位以上を履修すること。
- (※2)学部教育科目のうち2単位以上は、学科の指定する英語関連科目を修得すること。
- (※3)私費外国人留学生 YGEP-N2 においては、日本事情科目を基礎科目(人文社会系科目)に代替できる。
- (※4)外国人留学生においては、日本語科目を外国語科目に代替できる。

授業科目一覧

				セメスター		単位数		
科区	分	授業科目の名称	配当年次	/ターム (<u>※</u>)	必修	選択必修	選択	備考
【全学	教育和	4目】						
		国土学とグローバル社会 I	1	1			1	
基礎	科目 科学	国土学とグローバル社会Ⅱ	1	2			1	
系)	77	地質リスクマネジメント I	1	4			1	
7117		地質リスクマネジメントⅡ	1	5			1	
【学部	教育和	斗目】	•				<u> </u>	
基礎	寅習	都市基盤応用数学 I	1	1		1		1 単位以上を修得
科目		都市基盤応用数学Ⅱ	1	2		1		すること。
リテラ	シー	シミュレーションのための情報リテラシー I	2	2	1			
科目		シミュレーションのための情報リテラシー Ⅱ	2	2	1			
		都市基盤構造力学	1	4		1		公知上区が日の
		都市基盤材料複合力学	2	4		1		学部共通科目の うち左記5単位の
		都市基盤水理学	2	1		1		りら左記3単位の 修得を推奨す
学部	共通	都市基盤土質力学	2	1		1		修行を拒失する。
科目		都市基盤計画論	1	1		1		, 9°
		応用数学	3	春		2	<u> </u>	カテゴリーAから
		M 所 数子 M 和 所 的 I 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	1	春		2		6単位以上、カテ
	+	解析学Ⅱ	1	秋		2		ゴリーBから2単
	カテゴリー	関数論	2	春		2		位以上、必修2
	リリ	線形代数学 I	1	春		2		科目2単位を含
	Å	線形代数学Ⅱ	1	秋		2		む 14 単位以上を
専		微分方程式 I	1	秋		2		修得すること。
門		微分方程式Ⅱ	2	秋		2		
基	カテ	物理学IA	1	春		2		
礎 科	カテゴリ	物理学IB	1	秋		2		
目	В	物理学Ⅱ	1	春		2		
		確率•統計	2	秋			2	
		計測	3	春			2	
		情報処理概論	2	春			2	
		図学 I	1	春			2]
		図学Ⅱ	1	秋			2	
		地域経済政策	3	2			2	
		土木史と文明 I	2	4	1			
		土木史と文明Ⅱ	2	5	1			

				セメスター		単位数		
	·目 I分	授業科目の名称	配当年次	/ターム (※)	必修	選択必修	選択	備考
		海外インターンシップ	3	3			2	古田ニマがロユ
		海岸防災工学 I	3	1			1	専門コア科目か ら、必修科目 21
		海岸防災工学Ⅱ	3	2			1	学位、選択必修 ・単位、選択必修
		学外インターンシップ	3	3		1		科目11単位以上
		河川工学	3	4			1	を修得すること。
		環境アセスメント	3	4			1	
		環境水理学 I	3	4			1	
		環境水理学Ⅱ	3	5			1	
		気象災害リスク I	2	1		1		
		気象災害リスクⅡ	2	2			1	
		建設の国際プロジェクト・マネジメント I	3	4			1	
		建設の国際プロジェクト・マネジメントⅡ	3	5			1	
		建設材料とリサイクル I	2	1			1	
		建設材料とリサイクルⅡ	2	1			1	
		合意形成論	3	5			1	
		公共交通工学	3	2			1	
		鋼構造と都市インフラI	3	4			1	
		鋼構造と都市インフラⅡ	3	5			1	
	専	構造力学Ⅱ	1	5	1			
専	門	構造力学Ⅲ	2	1		1		
門科	コア	構造力学IV	2	2		1		
	科	構造力学演習	2	5	1			
	目	構造リスク設計論 I	4	1)			1	
		構造リスク設計論Ⅱ	4	2			1	
		交通工学技術論	3	5			1	
		交通工学理論	3	4			1	
		国際基盤工学実習	3	秋		1		
		国際連携科目(海外拠点)	4	3			2	
		コンクリート工学演習	3	1)	1			
		鉄筋コンクリート構造	2	5	1			
		資源循環·廃棄物学 I	3	1)		1		
		資源循環·廃棄物学Ⅱ	3	2			1	
		地震防災都市論 I	2	4		1		
		地震防災都市論Ⅱ	2	5			1]
		土質力学Ⅱ	2	1)	1			
		土質力学Ⅲ	2	4		1		
		土質力学IV	2	5		1		
		地盤リスク工学 I	3	1			1	
		地盤リスク工学Ⅱ	3	2			1	
		構造動力学 I	3	1)			1	
L		構造動力学Ⅱ	3	2			1	

				セメスター		単位数		
	分	授業科目の名称	配当年次	/ターム (※)	必修	選択必修	選択	備考
		水文水資源学	3	5			1	
		水理学Ⅱ	2	2	1			
		水理学Ⅲ	2	4		1		
		水理学IV	2	5		1		
		水理学演習	3	1)	1			
		測量学	2	1	1			
		測量学実習 I	2	春	1			
		測量学実習Ⅱ	2	3	1			
		卒業研究A	4	春	2			
		卒業研究B	4	秋	3			
		都市環境実験·演習A	3	1	1			
		都市環境実験·演習B	3	2	1			
		都市環境設計製図 I	4	1		1		
		都市環境設計製図Ⅱ	4	2		1		
		都市基盤安全学入門 I	1	1)			1	
市	専	都市基盤安全学入門Ⅱ	1	2			1	
専	門	都市基盤解析論	2	春	2			
門	コア	都市基盤計画演習	3	1	1			
科	科	都市計画と交通	2	4		1		
目	目目	都市景観設計 I	2	4			1	
		都市景観設計Ⅱ	2	5			1	
		都市下水工学	3	5			1	
		都市交通計画	3	1)			1	
		都市上水工学	3	4			1	
		都市水害防災 I	2	4		1		
		都市水害防災Ⅱ	2	5			1	
		土質力学演習	3	4	1			
		都市と地盤環境 I	3	4			1]
		都市と地盤環境Ⅱ	3	5			1]
		途上国における都市づくりI	3	1		1]
		途上国における都市づくりⅡ	3	2			1]
		複合構造	3	5			1]
		プレストレストコンクリート構造	3	4		1]
		メインテナンス工学 I	3	4		1]
		メインテナンス工学Ⅱ	3	(5)			1	

				セメスター		単位数		
科		授業科目の名称	配当年次	/ターム	必	選択	選	備考
区	分	[大木打日*22日4]		(**)	修	火 修	択	νm ··· y
						修		
		安全工学概論	2	春			2	専門関連科目か
		開発人類学講義	3	春			2	ら4単位以上を修
		環境・エネルギーシステム論 I	2	4			1	得すること。
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	2	5			1	
		公共施設の計画A	2	1			1	
		公共施設の計画B	2	2			1]
		国際開発学講義	3	秋			2]
		国際政治学講義	3	春			2]
		自然環境リスク共生概論A(地球と環境)	1	1)			1]
		自然環境リスク共生概論B(生物と環境)	1	4			1]
		地球科学	3	春			2]
		都市環境設備計画 I	3	1			1]
		都市環境設備計画Ⅱ	3	2			1]
		都市環境リスク共生論B	2	5			1	J
	専	都市計画とまちづくりI	3	1			1	J
	門	都市計画とまちづくりⅡ	3	2			1	
	関	都市リスクの空間分析とマネジメントB	2•3	2			1	
	連	人間生活と建築計画 I	1	4			1	
	科	人間生活と建築計画Ⅱ	1	5			1	
	目	文化人類学講義	3	秋			2	
		Prospects of Arch, Infstr, Eng &						
		Ecosystem Sci(都市創成技術(建築都	2.3	春			2	英語関連科目
		市•環境学))*]
		都市基盤英語A	2.3	1			1	英語関連科目
		都市基盤英語B	2.3	4			1	英語関連科目
		応用数学演習A	3	春			2	
		応用数学演習B	3	秋			2	
		環境管理学	3	秋			2	
		溶接工学概論	2	秋			2	
		環境法 I	2	1)			1]
		環境法Ⅱ	2	2			1]
		基礎化学	1	秋			2]
		国際経営論I	3	春			2]
		国際経営論Ⅱ	3	秋			2]

^(※) 春=春セメスター、秋=秋セメスター、丸数字=各タームを表す。

^{*「}都市創成技術(建築都市・環境学)」を履修する際は、英語科目名「Prospects of Arch, Infstr, Eng & Ecosystem Sci」で履修登録を行ってください。

YNU実践的「知」と学習・教育目標の対応表

TNU 美践的「知」と字音・教育日本	泉の刈心衣	T	T	T
YNU 実践的「知」	a. 知識·教養	b. 思考力	c. コミュニケーショ	d. 倫理観·責任感
学習·教育目標			ン能力	
(1)土木技術が社会や自然に対して極め				
て大きな影響を及ぼすものであることを理				
解し,技術者としての責任を自覚すると共	(ii)			\circ
に,地球的観点にたって自然環境との調	9			O
和のとれた共生を目指すことの重要性を				
理解する.				
(2)自然科学,人文科学,社会科学など,				
幅広い学識としての教養を習得し、これら				
が都市や社会を自然災害から守るととも				
に豊かにすることを使命とする土木工学	(iii)	\circ		\circ
を学ぶ上で有用な基礎学理であることを	<u> </u>			
理解すると共に、社会の要求を的確に把				
握し解決する能力を身につける。				
(3)科学技術における共通的リテラシーと				
しての数学、英語、情報技術を習得し、そ				
			0	
れらを用いた最先端技術を活用する能力				
を身につける。				
(4)構造工学系,水工学系,地盤工学				
系, 土木計画学系, 土木材料学系の基	(0		
礎学理を理解する.				
(5)主要分野に関する実験・実習・演習を				
通して、基礎学理を踏まえた実現象への	\bigcirc	(i)		\circ
理解を深める.	<u> </u>			
(6)主要分野に関する演習・研究を通し				
て,自主的・継続的な学習能力と,与えら				
れた制約条件の下で計画的に仕事を進	\bigcirc	0	0	0
め,成果をとりまとめる能力を身につけ				
 వ.				
(7)主要分野に関する演習・研究を通し				
て、日本語による論理的な記述力、口頭				
発表力、討議等のコミュニケーション能力		0	0	0
を身につける。				
(8)主要分野に関する演習・研究を通し				
て、国際的に通用するコミュニケーション	0		0	
能力を身につけると共に,技術英語の読	<u> </u>			
解力の基礎を涵養する.				
(9)以上を総合し、土木技術者として所属				
する各組織において, 自己および相手の				
取るべき行動を的確に判断し,他者と協	\circ			©
働するとともにリーダーシップのとれる素	-			-
養を身につける.				
<u> </u>		I	L ○ 主体的に関 <i>旦</i>	

◎ 主体的に関与, ○ 付随的に関与

都市基盤学科のカリキュラムツリー

			各]	各育成人材像に共通の科目	<u>=</u>				育成人材像	
是 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	専門基礎	順米	株品条	水理系	地盤米	交通·都市系	コンクリート系	防災土木	强境土木	国際土木
		報告本付A UU1001				都市基盤計画論 UU1032				
	解析學1、線形代数學1、 智師例1A、智師例1	国土学とグローバル社会1/11 GU1251								
1年春学期	区学I UUI042	都市基盤応用数学 L/II UC1002								
		都市基盤安全学入門 L/II UC1003								
_	解析学II、線形代数学II、 線分方程式1 物理学IB.	都市科学B/C UU1001	都市基整構造力学 UU1012		地質リスクマネジメント 1/11 GU1271					
1年校毕期	図学II UU1042		構造力学II UC1011							
		シミュフーションのための 情報リテレシー 1/11 UC2001	構造力学 III/IV UG2012	都市基盤水理学 UU2022	都市基盤土質力学 UU2022	测量学 UC2041		気象災害リスク1 UG2102	建設材料とリサイクル L/II UC2253	都市基盤英語A UC2303
2年春学期	別数論、情報処理概論 UU2042			水理学II UC2021	土買力学 II UG2031	測量学実習 1 UC2041		気象災害リスクII UC2103		
						都市基盤祭析論 UC2041				
2年夏季 (第39一ム)						测量学実習 II UC2041				
-	土木史と文明 1/II UC2001		構造力学演習 UC2011	水理学 II/IV UC2022	土質力学 皿/IV UC2032		都市基盤材料複合力学 UU2012	地震防災都市論 I UC2152	都市景觀設計 1/11 UC2203	都市計画と交通 UC2342
_	機分方程式Ⅱ						鉄筋コンクリート構造 UC2051	地震防災都市論 II UC2153		都市基盤英語B UC2303
2年秋字期	1011042、開始・第1							都市水害防災 1 UC2122		
	UU2042							都市水害防災 II UC2123		
	排名換錄館室	都市環境実験・演習A UC2001	構造動力学 I/II UC2013	水理学演習 UC2021		都市交通計画 UC2043	コンクリート工学演習 UC2051	海岸防災工学 I/II UC2123	資源循環•廃棄物学1 UC2202	
3年春学期	EU2331、 応用数学、計測	都市環境実験・演習B UC2001				都市基盤計画演習 DC2041		地盤リスクエ学 1/II UC2133	資源循環・廃棄物学 II UC2203	途上国における都市づくり1 UC2342
	UU2042					公共交通工学 UC2043				途上国における都市づくリ II UC2343
3年夏季 (第39一人)		学外インターンシップ UC2002								海外インターンシップ UC2303
		合意形成論 UC2003	網構造と都市インフラ I/I UC2013	河川工術 UC2023	土質力学演習 UC2031	交通工学理論 UC2043	ブレストレストコンクリート構造 UC2052	メインテナンス工学1 UC2102	環境木理学 L/II UC2223	類談の回際プロジェクト マキジメント1/0 UC2303
						交通工学技術論 UC2043	複合構造 UC2053	メインテナンス工学 II UC2103	水文水資源学 UC2223	国際基盤工学実習 UC2302
3年減學期									都市上水工学 UC2203	
L									都市下水工学 UC2203	
									都市と地盤環境 1/11 UC2233	
									環境アセスメント UC2203	
-		卒業研究A UC3001						構造リスク設計論 1/II UC3113		
最十十十		都市環境設計製図 L/II UC3002								
4年夏季 (第39一ム)										国際連携科目(海外拠点) UC3303
4年秋学期		卒業研究B								